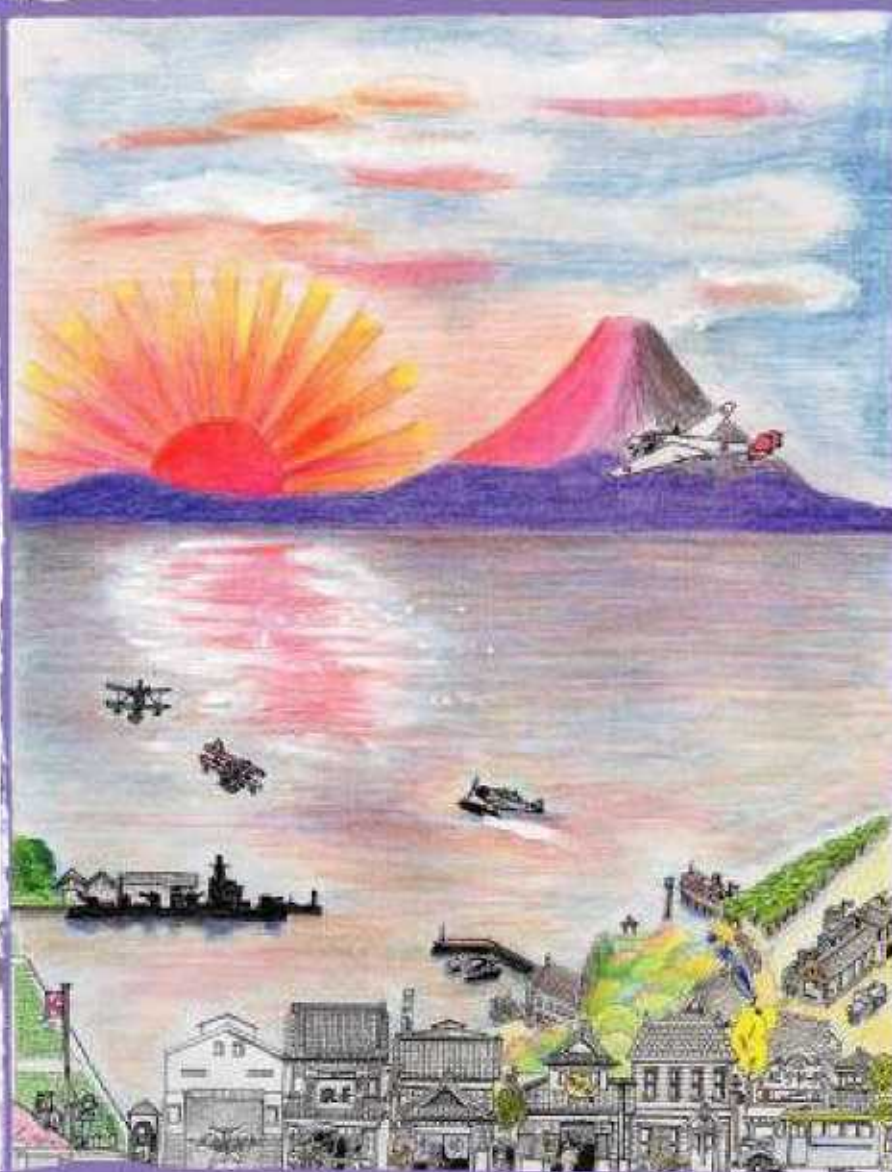


あわがいとマップ① 海軍のまち 館山



発行 NPO法人 安房文化遺産フォーラム

年 表

- 1923 (大正12) 年 関東大震災 (9月)
 1927 (昭和 2) 年 洲崎第2砲台竣工
 1930 (昭和 5) 年 館山海軍航空隊 (航空) 開隊 (6月)
 1932 (昭和 7) 年 大房岬砲台・洲崎第1砲台竣工 東京湾要港指定 5.15事件 海外出張
 1933 (昭和 8) 年 国連加盟
 1935 (昭和10) 年 航空に九六式中艦隊上攻撃機 (中攻) 6機配備 (2月)
 1936 (昭和11) 年 『中攻』館山-サイパン島間航行 海軍木更津航空隊機 2,26事件
 1937 (昭和12) 年 『中攻』木更津基地から発進 中国へ進軍 (3月) 日中戦争
 1939 (昭和14) 年 海州に『千葉村』建設決定 国民徴用令 重慶爆撃 第2次世界大戦勃発
 1940 (昭和15) 年 紀元2600年記念式典 (11月) 日独伊三国同盟 大政翼賛会発足
 1941 (昭和16) 年 館山海軍航空学校創校 (6月) 『カジメ採集』司令 (3月)
 館山空母下8ヶ所に防空監視隊本部設置 国民学校令 (3月)
 真珠湾攻撃・太平洋戦争始まる (12月)
 1942 (昭和17) 年 ドーリットル本土初空襲 (4月) 漢口開拓青少年義勇隊千葉県隊員91名が満洲
 フィリピン・マニラ、シンガポール、占領 (1~3月)
 ミッドウェイ海戦敗北 (6月)
 1943 (昭和18) 年 ガダルカナル島から撤退 (2月) 洲ノ尾海軍航空隊創設 (6月) 学徒出陣 (10月)
 朝鮮に戦供献実証 沖縄に竹槍訓練 『青い目の人形』爆される
 1944 (昭和19) 年 宇留島開 (6月) 特攻艇『観海』建造開始 (7月) サイパン島全滅 (7月)
 海軍神風特攻隊編成 (10月) 九十九里や南房総が本土決戦地づくり (10月)
 レイテ沖海戦敗北 (10月) 航空より神島特別攻撃隊『第一新選隊』出撃 (11月)
 1945 (昭和20) 年 米軍が硫黄島軍事作戦として空襲 (2月)
 千葉・木更津・館山の各市町市に指定 (3月) 東京大空襲 (3月)
 千葉港に第一艦隊第12方面軍を配置 東京湾要港司令部を館山市津古に移転 (4月)
 川崎地区は29による空襲 (5月)
 特攻艇『稲花』の発射基地を南房総市三芳地区に建設開始 (5月)
 沖縄戦終わる (6月) 南房総市白浜地区に艦艇射撃 (7月)
 広島・長崎に原爆投下 (8月) ボツダム宣言承認・終戦 (8月)
 外務省館山総領事館委員会設置
 戦艦ミズーリ号で降伏文書調印後米軍館山に上陸 (『4日曜』真珠湾戦) (9月)

〈ツアーガイドのご案内〉

- 座学 (映像)、質疑応答所見学
 カラーガイドブックつき
 ●対象：10名以上の団体
 ●ガイド料：参加者1人あたり 1,500円ー
 (料金は行程、時間、人数によって異なります)

〈ガイドブックのご案内〉

- 『あわ・がいと』シリーズ
 各800円
 ① 戦争遺跡
 ② 勇戦勇死
 ③ 高ととも生きるまち
 ④ 安房古道を歩く

- 購入のご希望は
 ・書店 0470-23-7771
 ・Books 松田屋 0470-23-1681

発行 NPO法人 安房文化遺産フォーラム

あわがいとマップ編集委員会
 河野弘明・中屋義典・小沢義宣
 岡崎芳一・愛沢伸哉
 イラスト制作 中屋義典

〒294-0036 千葉県館山市館山85
 小高記念館
 TEL・FAX 0470-22-8271
 ホームページ <http://www.internet-ex.com/nao/>

2008年8月15日制作

定価 300円 (税込)

①館山海軍航空隊

(館空) D・E-5~7

関東大震災の海底隆起で遡進になった宮城や笠戸の海岸を陸立て、1930(昭和5)年、全国で5番目の実戦航空隊として開隊した。航空基地は「陸の空母」と呼ばれ、練習航空隊卒のパイロットの訓練を受け持つとともに、帝都防衛の第一線を担った。航空機は攻撃用の艦載機や長距離飛行できる陸上攻撃機に変化し、1936(昭和11)年には、96式中型陸上攻撃機が開発されて、鶴山-サイパン間の無着陸飛行に成功している。

1945(昭和20)年に入ると、基地は米軍による空襲にさらされ敗戦を実感する。本土決戦が叫ばれるなか終戦を迎えた。9月2日に米艦艦ミズーリで降伏文書調印が行われ、翌日館山航空基地に占領軍本隊3500名が上陸したのである。



⑥第二海軍航空隊館山補給工場跡 D-5

航空兵器や機材の修理、保管供給を行った。屋根には被弾跡が残っている。現在も造船所の修理工場として使用している。



⑦米占領軍上陸地点 E-4

水上飛行機を海上に降ろすスリップ(滑走台)で、手前には格納庫まで運んだ台車のレール跡が残っている。1945(昭和20)年9月3日に米占領軍本隊が上陸してきた場所である。

⑧魚雷庫跡 C-4

国司神社横の切通にあるコンクリートでおおわれた庫で、当時は台車の上に魚雷が置かれていた。



⑨手洗石 E-5

高の島井財天に航空隊が1935(昭和10)年に奉納したもので、飛行機の記章が彫られている。



⑩航空隊本庁舎 D-5

戦争末期、正面玄関に爆撃を受けたが修復し、現在も海上自衛隊の本庁舎として使用している。



⑪海軍宮城水源跡 A-4

ダム建設には昭和16年建設があり、敷地には公園用地の標柱が残っている。今は、ササ山になりヒナ育での聖地でもある。

配備されていた航空機



②赤山地下壕跡

(館山海軍航空隊) D-5

「館空」の南側にある、通称赤山(標高80m 凝灰質砂岩より成る)には、総延長2kmの地下壕と巨大な燃料タンク2基(直径18m 深さ20m、未使用)が残っている。1930年代半ばより掘削され用途によって使用されたのではないかと推測される。戦争末期は本土決戦に備えて大規模に掘削されている。大部分は未掘りであり、ツルハシの跡がのこっている。壕内に銃撃指揮所、医療施設、司令室、奉安殿、兵舎、航空機部品格納庫、兵器・燃料貯蔵庫、発電所などと思われ、全国でも珍しい航空要塞の機能を持っている。2005年に館山市指定史跡となった。



平和学習のため年間1万を超える入場者



中央に御真影が安置された「奉安殿」

⑫戦闘機用掩体(壕) C-5

戦争末期、米軍の空襲からゼロ戦など戦闘機を守るために造られた格納庫。河岸段丘を利用して赤山周辺に数ヶ所あったが、現存しているのは一基である。兵士や学生・住民による徴用や動員によって造られた。



宮城にある戦闘機用掩体(壕)



NPO法人安居文化遺産フォーラムによるガイド活動



地質学的に貴重な地層とその紋様